

潜んでいます！身近な危険

河川の急な増水や、蜂など、日常に潜む身近な危険について紹介します
地域でお話する材料として活用されてはいかがでしょうか？

1 ねらい

防災活動と言えば「震災」「火災」に関するものがイメージされがちですが、その他にも災害はさまざまなものがあります。また、災害以外にも身の回りの危険にはいろいろなものがあります。

それらを紹介することで、身の回りの危険について考える機会を作ります。

2 内容紹介

震災・火災以外の災害、身の回りの危険の一部を紹介します。

(1) 風水害・土砂災害

灘区都賀川の事故が記憶に新しいところですが、集中豪雨や台風による被害は、後を絶ちません。また、神戸市は六甲山から海にかけて急峻な地形を有するため、過去にも大きな水害が何度も起こっています。今一度、風水害の怖さを知り、必要な知識、技術を身につけるための活動が必要です。

※都賀川増水事故～平成20年7月28日、14時45分頃から降り出した大雨で河川が急激に増水し、濁流に飲み込まれた5人が死亡した。

【対策】

ア テレビ・ラジオなどで情報収集しましょう。

風水害・土砂災害は集中豪雨や台風によるものが多く、比較的予測が可能です。情報を収集し、事前に対策をとるように心がけましょう。

イ むやみに外出しない。

ニュースや天候で風水害の危険性を事前に感知したら、むやみな外出は避けましょう。外出する場合には、行き先や帰りの予定時刻などをメモに残しておきましょう。

ウ 川・池・海など危険な場所には近づかない。

神戸市は六甲山や川、海など自然がすばらしい環境です。

しかし、集中豪雨や台風などが発生すれば、たちまち恐ろしい自然の力を発揮します。危険を感じてから避難するのではなく、風水害の危険情報や天気の状態を見て、「風が強くなってきたり、空が曇ってきたら川や海から上がり、安全な場所に移動する」など、早めの対策が必要です。

エ 事前に知識をつけておきましょう。

風水害や土砂災害については、ホームページ等でさまざまな情報を得ることができます。事前に必要な知識を身につけておきましょう。(ホームページアドレスは変更する場合があります。)

- ・ 神戸市危機管理室
<http://www.city.kobe.jp/cityoffice/02/>
- ・ 神戸市建設局
<http://www.city.kobe.jp/cityoffice/30/043/dosyasaigai/index.html>
- ・ 神戸市消防局
<http://www.city.kobe.jp/cityoffice/48/>
- ・ 気象庁
<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>
- ・ 神戸市河川モニタリングカメラシステム
<http://www17.plala.or.jp/kcamera/>

(2) 蜂刺され

ハチといってもミツバチ、アシナガバチ、スズメバチなど種類も多くみられますが、特に人を刺して問題になるのはスズメバチで攻撃性が強く、8月～10月にかけて被害が集中しています。たかが「蜂さされ」と思いがちですが、「蜂さされ」によるアレルギー症状（アナフィラキシーショック）で死亡するケースがあります。予防策など必要な知識を身につけておきましょう。

【蜂刺され予防】

ア 「黒い色」に対して攻撃性が強いので、黒い服装は避け、帽子をかぶるなどして頭髪を隠して下さい。特に「白い色」や「銀色」に対して攻撃性は弱いようです。

イ ハチは臭いにより刺激され、興奮して攻撃性が強くなるので、ヘアースプレー、ヘアートニック、香水等はなるべくつけないほうが良いでしょう。また、体臭や汗くささにも反応するため、入浴等により体を清潔に保ってください。

【万一刺された場合】

ハチに刺された場合、一般的には刺されたところに激痛が走ったり、赤く腫れたりという症状が出ます。

そのような場合は次の処置をしてください。

- 1 傷口を流水で洗い流す。
- 2 傷口からできる限り毒を搾り出す。
- 3 傷口をよく冷やす。



※ 口などで毒を吸い出すことについては、口の中に傷（虫歯も含む）があった場合そこから体内に毒が入ってしまうことがあるのでやめましょう。また、毒針が見えていたとしても、更に押し込んでしまう場合があるので、無理には抜かないで下さい。最近ではおしっこ（アンモニア水）もハチ毒には効果は無いとされています。

しかし、一番恐ろしいのは、ハチに刺されたことにより発症する「アナフィラキシーショック」というアレルギー症状です。



ちえぶくろ

ハチの毒に対して体が過敏に反応してしまった場合（アナフィラキシーショック）は、極めて短時間（約15分～20分）で呼吸困難や血圧低下など重篤な症状を引き起こす場合があります。（特にハチに刺され、赤みや腫れが広範囲に及んだ方は、その可能性が高くなります。）

このような場合は、一刻も早く病院での治療が必要となるので、すぐに救急車を呼んで下さい。

(3) のど詰め・異物誤飲

子ども、高齢者を中心に「食べ物のど詰め」による窒息死も後を絶ちません。予防することが第一ですが、万一に備えて知識を持つておくことも大切です。

子どもでは、周りにおもちゃの部品や硬貨など、ありとあらゆるものがのど詰めの原因となります。子どもの手の届く範囲には、このようなものを置かないよう日頃から注意しましょう。食べ物では飴玉やこんにやく入りゼリーなどにも注意が必要です。

高齢者では、餅によるのど詰めが後を絶ちません。その他、刺身やパン、肉など、食べ物によるのど詰めが多く発生しています。

【誤飲予防】

小さな子どもは、何でも口に入れてしまいますので、親が十分注意し、安全な環境づくりが必要です。

- 1 整理整頓に心がける。
- 2 子どもの目につくところ、手の届くところに小さなものを置かない。

【のど詰め】

急に声が出なくなって苦しみだし、手で喉をつかむしぐさをした場合、異物が喉につまったことを示す「窒息時のサイン」です。直ちに取除かないと生命が危険です。

意識が無ければ直ちに救急車を呼び心肺蘇生法を開始してください。

ア 小児・成人（1歳以上）

背部叩打法（図1）と腹部突き上げ法（図2）を併用してください。回数、順序は問わず、異物がとれるか、反応が無くなるまで続けます。

反応がなくなった場合は、直ちに心肺蘇生法を開始します。



図1



図2

イ 乳児（1歳未満）

・片腕の上に頭部が低くなるように腹ばいにさせ、あごに手を乗せ突き出すようにし、他方の手のひらの根元で背中の中を異物がとれるか、反応が無くなるまでたたく。（図3）

・反応が無くなった場合は、子どもの心肺蘇生法を開始する。



図3

※心肺蘇生法などは、ぜひ救急講習を受講して身に付けましょう。

(4) 交通事故

近年の日本では、災害による被害者よりも交通事故による被害者のほうが多いのが現状です。訓練の際には、行き帰りの道中に事故の無いように注意を促すことをきっかけに、交通安全について考える機会をつくるような工夫も必要です。

ワンポイントアドバイス

☆ これらの危険はごく一例です、一例を紹介することで、身の回りにどのような危険があるかを皆で考え、事故の予防策を事前に立てる機会が重要です。

参加者の方へ・・・

☆ 家の中での事故の危険性について、一度考えてみるよう伝えましょう。（お風呂、階段、扉、段差、庭、トイレなど）